

平成11年

夏号

広報



# たんごの風

No.1

—「安心」を支える消防をめざして—



▲ 煙の迷路から無事脱出完了！

6月8日、峰山消防署本署が、弥栄町内の小学校4年生社会科見学でにぎわいました。職員から消防のしくみや勤務内容の説明を受けたあとポンプ車や救急車を見学したり、救助技術の訓練をながめたり、そして真っ暗な煙の部屋に入ったり…。

ときには思いもよらない質問がとびだして、職員もドッキリ・ビックリしながらも、なごやかなふんい気に包まれていました。

火事・救急・救助

局番なしの119へ  
(携帯電話でも同じです)

「救急車はなぜ現場からすぐに出ないの？」

# 求められる高度な処置



救急救命士による高度救命処置の実演

## 通報は正確に

住民の方から「救急車の到着が遅い！」「いつまでも病院に行かへん！」という苦情を聞きます。通報が入り次第出動し、じん速な病院搬送につとめてはいますが、救急業務を取り巻く社会的環境はさまざまに変化していますので、柔軟に対応しなければなりません。ことあります。

119番通報にはさまざま  
まな表情の声があります。  
落ち着いた声、大変慌てた  
声、怒ったような声、泣き

声、ときには「来たらわか  
る！」と通話を切られるこ  
とも。  
大切な家族や友人が突然  
の急病や事故に見舞われた  
時、誰でも冷静でいられる

ものではありません。

しかし、「場所と状態」が  
分からなければ救急車は出  
動できませんので、通報を  
正確に聞き取り、場所が確  
認でき次第出動します。

出動件数の約55%は5分  
〜10分で到着。全国平均を  
みても、約53%が5分〜10  
分を要しています。

## より専門的な 対応へ

現場に到着すると、あら  
じめ得た通報内容に従っ  
て救急活動に入りますが、  
「処置はもういいから早く  
病院へ連れてつてくれ！」  
というお叱りを受けること  
があります。

ところがどうしてもすぐ  
に出発できない場合があります。  
それは高齢化や社会  
生活の多様化に伴い、救急  
内容も複雑化していて、よ  
り専門的な対応が求められ  
るなど、救急隊を取り巻く  
社会的環境が大きく変化し

ていることによるものです。

このため、救急救命士等  
を中心に、これまで以上に  
高度な救命処置と正確な症  
状観察・病院への的確な情  
報連絡等の取り組みを強め  
ていることから、そうした  
時間がどうしても必要とな  
ってきています。

この点をどうかご理解い  
ただき、ご協力をお願い  
いたします。

## 救急救命士って!?

医師の指示のもと  
医療機関に搬送され  
るまでの間に適切な  
救急救命処置を行う  
ため、平成3年4月  
に救急救命士法が施  
行され、国家試験に  
もついで救急救命  
士が誕生しました。  
丹後広域消防組合  
では現在6名が資格  
を取得し、隊員と共  
に救急隊の資質の向  
上をめざして頑張っ  
ています。



久美浜町葛野  
岡野 勝さん

普通救命講習を受けて  
義務から社会常識へ

過日、講習を受け痛感した。自分の愛する子供達や家族に応急手当の必要性が発生した時、誰よりも先に行動する必要があるのは、その時バイスタンダーであるであろう私であると。

それは救命曲線(注)と救急車の到着平均時間との比較からも明らかである。その事に気づかせていただいた救命士の方々に感謝したい。

できれば義務として講習を受けるのではなく、社会常識として講習を受けるような施策も期待したい。救命技能を持った人が側にいるだけで、どんなに心強いかわかるまでもない。



脈の観察をするママの手つきがカッコいいネ!

# 一家に一人は救命士を

## まず人工呼吸と心臓マッサージを

生死を分ける」と言っても決して言い過ぎではありません。

## 二日間で67人が受講

呼吸が停止した場合、人工呼吸や心臓マッサージを早くすればするほど蘇生する割合が高くなり、遅ければ遅いほど死亡する割合が高くなると言われています。したがって、「現場に居合わせた人(バイスタンダーと言います)の処置が

このことから「一家に一人は救命講習受講者」を大

今や高齢化の進展と交通事故の増加などによって、誰でもいつこのバイスタンダーの立場に立たなければならなくなるかも知れません。

きな目標に心臓マッサージや人工呼吸、止血などの応急手当を住民のみなさんにマスターしていただくとう講習会を開きました。

受講者は二日間で67人を数え、受講後の感想として

①心肺蘇生法の必要性が理解できた。

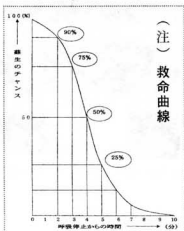
②家族に何かあった時応急手当をする自信が

開講して欲しい。

などの積極的な意見が多く、大きな手応えを感じました。

## バイスタンダーと消防職員の連携ブレード

参加者の内訳を見ると、男性35人、女性32人ではほぼ同数。10代から60代にわたって、応急手当についての関心の深いことがうかがえます。



6月26、27日の二日間、峰山消防署本署の2階講堂で住民のみなさんを対象とした普通救命講習会を開きました。

日本の高齢化は世界に前例のない程の早さで進行しており、この丹後も決して例外ではありません。交通事故の増加、生活スタイルの多様化と相まって、救急もますます増え続けるものと思われれますが、バイスタンダーのみなさんと消防職員の連携ブレードのもとに安心、安全な生活が送れるようにしたいものです。

# 小さな火種が大きな災害を

## バーベキューにご注意を



### 着火剤が飛び散り

### 『やけど』

アウトドアレジャーでの楽しみは、自然の中で食べるバーベキュー。

少し前までは、炭をおこすのも何かと大変でしたが、最近ではマッチ一本で手軽に火を着けさせることができるゼリー状の着火剤が市販されています。

しかし、この着火剤は手軽な反面、非常に引火しやすい性質を持っており、また火力も強いことから、不注意な取り扱いをすることで事故となつてしまいます。

### 【事例】

屋外にてバーベキューをしていたところ、炭火の火力が強かつたため、仲間の一人在り、着火剤が飛び散り近くで座っていた女性の衣服に付着し引火、やけどを負いました。

これ以外の事故でも、火のついてる炭に着火剤を注入したことにより発生しており、使用方法（着火時の助燃剤）を誤つたことです。

この着火剤は、形状が液体でなく調味料のような容器に入っていることから、使用するにあたり、それ程危険性を認識されていないと思いますが、実は危険度としてはガソリン等と変わらないものです。

### （注意点）

- 燃えている炭に「つぎたし」厳禁
- 1回使用した容器には、可燃ガスが溜まっている場合があります。
- マッチ、ライターでの点火は危険です安全のため、棒切れ等を利用して1m以上離れて着火してください。

### 花火遊びは

### 迷惑にならない 場所と時間と後始末



### 家族みんなで考えて

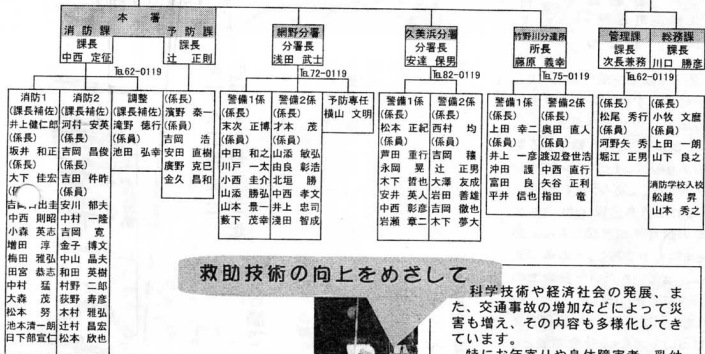
先日、弥栄病院・大宮町役場で消防職員も参加しての消防訓練を行いました。  
皆さんの家庭でも、特にお年寄りや子供さんを災害から守る方法を日頃から話し合ってください。

峰山消防署

署長 福岡 次雄

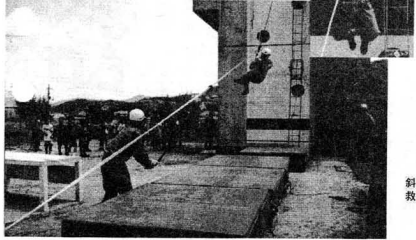
消防本部

次長 久下 一雄



救助技術の向上をめざして

▼見学中の小学生から声援を受ける救助チーム



科学技術や経済社会の発展、また、交通事故の増加などによって災害も増え、その内容も多様化してきています。

特にお年寄りや身体障害者、乳幼児などをいかに災害から守るかということが、福祉における消防の大きな課題といえます。

いざというときに備えて、20歳代を中心とした救助チームが、非番の日や公休日を利用して訓練に励んでいます。今年も「救助技術指導会」で以下のチームが見事、京都府予選を突破しました。



田宮恭志 松本 努 中西彰彦 辻村昌宏 富田良

斜めブリッジ救助▲



大森 茂 中西孝文 梅田雅弘

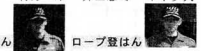
ほふく救出



中山晶夫 矢谷正利 浅田智成



村野二郎 井上忠司 木下夢大



はしご登はん ロープ登はん

池本清一朗 山本景一

編集後記

業務開始以来、折に触れて消防署便りを発行してきましたが、今回から装いも新たに、「たにの風」を発行することになりました。

この広報紙を通じて、みなさんに広域消防組合の仕組みや業務内容などを知っていただき、地域ぐるみで安心・安全な町づくりが進められることを願っています。

防火・防災・救急についての勉強会や相談などがあり、ありがとうございました。